

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 神学部の理念・目的に基づいて、教員組織の編成方針を策定する。	→教員組織編成方針の策定(2013年度までに)	C
2. 教員組織を検証する制度を整備する。	→既存の人事委員会における検証および教授会に対する報告書の作成(2013年度より)	C
3. ファカルティ・デベロップメント(FD)活動を通じて教員の資質向上を図る。	→学部の授業改善報告を取り入れたFD研修会の実施(年2回)。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目 11.0.1	(方針) [明文化に至っていない] (現状説明) 神学部の理念・目的にある専門領域の4構成(旧約聖書学・新約聖書学/歴史神学/組織神学・宗教哲学/実践神学)などに照らし、神学部として求める教員像および教員組織の編制方針は、教員間に了解があるものの、明文化されていない。
☆	小項目 11.0.2	神学部の教員組織および授業担当割当は、カリキュラム研究委員会(学部)を中心に検討されている。カリキュラムを実施するに適切であり、教育課程に相応しいと判断している。
☆	小項目 11.0.3	教員の募集・採用・昇格については、学内規程である「教員選考基準」「教授、准教授、助教及び専任講師の任用に関する規程」に基づいて神学部に内規を定めてこれを部内周知しており、手続きについて適切に行われていると言える。
☆	小項目 11.0.4	教員の資質の向上を図るため、学期に1回、全専任教員が参加するFD研修会(学部)を行っている。また、非常勤講師を対象としては、年に1回、これを実施しているが、いずれの研修会も、教育活動における新たな試みの情報共有や授業改善の観点から、内容の精査および実施回数の確保が必要と考えている。
☆	その他	

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

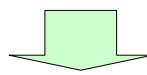
【神学部】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	専任教員1人あたりの学生数 (ST比)		人	10.3	11.3	10.9	11.7	13.6	
指標2	必修科目および選択必修科目に対する専任比率	専門教育	%	95.2	100.0	92.9	93.3	100.0	
		教養教育	%	42.9	42.9	53.8	52.9	46.9	
指標3	専任教員の年齢別構成 (分布)			→	→	→	→	→	大学基礎データ表21参照
指標4	教員組織における女性教員の比率		%	8.3	8.3	16.7	16.7	18.2	
指標5	本学出身の専任教員の構成比率		%	66.7	66.7	58.3	58.3	70.0	

注) 指標5は学部、研究科、研究所、センターを対象とする。

◎効果が上がっている事項

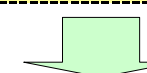
【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
小項目 11.0.3	
★ 小項目 11.0.4	F D研修会においてシラバスの必須要素について研修を行い、シラバスの内容充実を図った。2006年度と2010年度のシラバスを比較すると、全体で各回の授業内容を明示しているものの総数が、35件(全シラバス中38%)から84件(全シラバス中64%)と増加している。回数毎に記載されていない科目は、学生の学習状況に歩調を合わせる科目、すなわち英語/ドイツ語などの語学科目、さらに演習科目である。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	シラバスの内容を精査し、一層の充実を目指す。演習科目のシラバスの書き方などについては、卒業論文導入(2010年度生から)の件も含めて、今後さらに取り組んでいく。
その他	



◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】

- 教員構成をめぐる改善は進んでいると思われま。
- FD研修会に関する記述も具体的で適切だと思われま。

【学内委員】

- 自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも現状はどうか、要素を視野に置きながらもう少しご説明をお願いします。例えば、「教員組織が適切である」としていますが、何故適切といえるのかの記述が望まれます。
- 現状説明で課題がかかげられていますが、改善すべき事項への記載も必要ではないでしょうか。
- 効果が上がっている事項での記述内容は、小項目6.3.2においても触れていただきたい。また、FDの有効性の説明にもなるので、現状説明でも触れることが好ましいでしょう。
- 特定6項目データを使った現状説明が求められます。
- 目標の実現に期待します。
- 小項目11.0.1について、明文化までのプロセスを示しておくことが望まれます。
- 大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」（ハンドブックP78～）において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「8. 教員組織 ③専任教員の年齢構成のバランスが取れている」については「学部として、61歳以上が35%を超える場合は助言、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超える場合は助言になることもある」とされています。本水準を満たすことは大変難しいことですが、本水準を念頭におき今後の教員人事をお考えください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 小項目11.0.2の現状説明について、カリキュラム委員会（学部）は学部長および教務担当教員のほか、各領域（旧約聖書学／新約聖書学／歴史神学／組織神学・宗教哲学／実践神学）の代表者から構成され、カリキュラム編成原則を立案・確認している。その原則に基づき編成の結果、必修科目および選択必修科目における専任教員比率は過去5年間の平均で95%を超えている（特定6項目データ指標2）。また選択科目については前年度の開講状況を踏まえ、各領域の担当教員が計画的に授業開講・担当者案を作成している。複数担当科目にあつては専任教員を代表者として、幅広い分野から非常勤講師を採用するよう務めており、結果、学生の在籍期間中に広い学びが可能となるような仕組みを整備している。

Ⅴ. 本項目の評価指標

＜全学的な指標＞

11.0.0.S1	専任教員一人あたりの在籍学生数
11.0.0.S2	開設授業科目における専任比率
11.0.0.S3	専任教員の年齢別構成
11.0.0.S4	教員一人当たりの授業時間数
11.0.0.S5	本学出身の専任教員の構成比率
11.0.0.S6	海外の大学で学位を取得した専任教員の比率
11.0.0.S7	教員組織における実務家教員の占める割合（専門職大学院に限定）
11.0.0.S8	教員組織における女性教員の占める割合
11.0.0.S9	任期制教員（契約教員）の採用数
11.0.0.S10	実験実習指導補佐、教務補佐、授業補佐の採用数
11.0.0.S11	ティーチング・アシスタント(TA)の採用数
11.0.0.S12	契約助手の採用数
11.0.0.S13	実験助手の採用数
11.0.0.S14	リサーチ・アシスタント(RA)の採用数
11.0.0.S15	公募制による採用教員の数

＜個別的な指標＞
